



『ブレイクスルー感染について ・・・ワクチン接種の意義』



しもじ内科クリニック院長
下地 栄壮



最近、ニュースで“ブレイクスルー感染”という言葉をよく聞く様になりました。新型コロナウイルスのワクチンは、2回目の接種を受けてから2週間程度で十分な免疫を獲得するとされますが、それ以降に感染した場合を“ブレイクスルー感染”と呼んでいます。ブレイクスルー感染がおこる理由は、以下のことが考えられます。

👉**そもそも、どの感染症に対するワクチンでもその効果は100%ではない**

季節性インフルエンザのワクチンでも発症防止効果は50%程度とされています。また、高齢者、がんなど基礎疾患がある人、免疫抑制剤やステロイド剤などを使用している人、飲酒の頻度が高い人などはワクチンの効果が低下する可能性を指摘されています。

👉**感染力の強い「デルタ株」が主流になった**

「従来型のウイルス」に対して、ファイザー製のワクチンの発症予防効果は95%とされていましたが、「デルタ株」では64%に低下すると報告されています。

👉**接種後の時間経過とともに、獲得した抗体の量が低下する**

2回接種によって獲得した抗体の量(抗体価)は、時間の経過によって徐々に低下します。3か月後の抗体価は1/3程度に低下するという報告があり、さらに高齢者や喫煙者、男性で低下しやすいとの報告もあります。

それでは、ワクチン接種は意味がないのでしょうか？

米国疾病予防管理センター(CDC)から、デルタ株流行下において、ワクチン接種を受けた人は受けていない人と比較して感染する可能性が約5分の1に低下し、入院する率が約29分の1に低下すると報告されています。また、ワクチン接種を済ませた人が、ブレイクスルー感染で亡くなる確率は0.001%未満と報告されています。

日本では、厚生労働省の試算によると7月と8月で推定10万人以上の高齢者の感染を抑制した可能性、推定8,000人以上の高齢者の死亡を抑制した可能性があると考えられています。

ワクチン接種は、“新型コロナに罹りにくくする”“もし感染したとしても症状が軽く済む”ということを考えると、非常に意義があると考えられます。



《お知らせ》

今年はインフルエンザワクチンの供給が遅れると見込まれているため、**インフルエンザワクチン接種を11月1日から開始します。**ご迷惑をお掛けしますが、ご了承下さい。



しもじ内科クリニック(nico nico studio)

東区三苦3丁目2-49(福岡銀行美和台支店隣り)
TEL:092-605-6300